

令和2年小山町高校生議会会議録

令和2年10月11日

召集の場所 小山町役場議場

開 会 午後1時00分 宣告

出席議員 1番 井上 聡君 2番 杉山 華君
3番 池谷 佳紀君 4番 鈴木 正悟君
5番 柿下 遥菜君 6番 甲斐 七楓君
7番 植松 駿君 8番 八木 絢斗君
9番 金子 光希君 10番 澤岡汐里香君
11番 岩田 凜君 12番 松元 愛菜君
13番 三浦ひまり君

欠席議員 なし

説明のために出席した者

| | | | |
|--------------------|--------|-------------|--------|
| 町 長 | 池谷 晴一君 | 副 町 長 | 大森 康弘君 |
| 教 育 長 | 天野 文子君 | 企 画 総 務 部 長 | 野木 雄次君 |
| 危 機 管 理 局 長 | 遠藤 正樹君 | 住 民 福 祉 部 長 | 小野 一彦君 |
| 経 済 産 業 部 長 | 高村 良文君 | 都 市 基 盤 部 長 | 湯山 博一君 |
| オリンピック・パラリンピック推進局長 | 池谷 精市君 | 教 育 次 長 | 長田 忠典君 |
| 総 務 課 長 | 池田 馨君 | 総務課課長補佐 | 渡邊 徹君 |

職務のために出席した者

| | | | |
|-------------|--------|---------------|--------|
| 議 会 事 務 局 長 | 後藤 喜昭君 | 議 会 事 務 局 書 記 | 池谷 孝幸君 |
|-------------|--------|---------------|--------|

閉 会 午後2時17分

(議 事 日 程)

開会の宣告

日程第1 議席の指定

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

1番 井上 聡君

2番 杉山 華君

情報発信について

3番 池谷 佳紀君

4番 鈴木 正悟君

5番 柿下 遥菜君

学生の進学援助について

6番 甲斐 七楓君

7番 植松 駿君

公式LINEと自習スペースの確保について

8番 八木 絢斗君

9番 金子 光希君

こども園について

10番 澤岡汐里香君

11番 岩田 凜君

12番 松元 愛菜君

防災訓練について

閉会の宣告

議

事

午後1時00分 開会

○議長（三浦ひまり君） 本日はよろしく申し上げます。

ここで報告します。新型コロナウイルス感染防止のため、議場内では当局の説明並びに議員の発言の際も含めて、マスクを着用することとします。

また、小山町議会傍聴規則第8条の規定により、本日は傍聴席でのビデオ、カメラの撮影を議長において許可しておりますので、報告します。また、報道関係者等による議場での記録用写真の撮影を議長において許可しておりますので、併せて報告します。

ただいま出席議員数は13人です。

出席議員が定足数に達しておりますので、小山町高校生議会は成立しました。

ただいまから令和2年、小山町高校生議会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめ配付しましたとおりですから、朗読を省略します。

日程第1 議席の指定

○議長（三浦ひまり君） 日程第1 議席の指定を行います。

議席は、小山町議会会議規則第4条第1項の規定を準用し、議長が指定します。

議席は、ただいま着席の議席とします。

日程第2 会期の決定

○議長（三浦ひまり君） 日程第2 会期の決定を議題とします。

お諮りします。本議会の会期は、本日1日としたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（三浦ひまり君） 異議なしと認めます。したがって、会期は、10月11日、1日と決定しました。

日程第3 一般質問

○議長（三浦ひまり君） 日程第3 これより一般質問を行います。

なお、今回の質問は、グループで質問を考えたものです。

質問者は登壇し、質問願います。

通告順により、順次発言を許します。

初めに、1番 井上 聡君。

○1番（井上 聡君） 2人を代表して、小山町の情報発信について質問します。

まず初めに、現在、小山町ではユーチューブチャンネル、インスタグラム等を利用して、小山

町の魅力をアピールしています。そこで、「小山町のここがすごい」というテーマで新たに小山町の魅力をアピールするというのはどうでしょうか。

これを行うことのメリットは、小山町がどのようなことをアピールしていきたいのかを明確にすることで、小山町のどのようなところに注目してもらいたいのかを知ってもらうことができるという点です。例としては、ポケットティッシュにアピールしたいポイントを書いた紙を入れて配布する、バスなどにポスターや広告として掲示する、現在あるユーチューブチャンネル、インスタグラム等で発信するなどです。

次に、LINEスタンプの認知度向上についてです。現在小山町では、LINEスタンプが販売されています。そこで、もっとたくさんの人に小山町のLINEスタンプを知ってもらうために、コミュニティバスの車体に「LINEスタンプ好評配信中」のような文章と2次元コードをつけることによって、LINEスタンプの購入ページに飛ぶことができ、LINEスタンプの存在を多くの人々に知ってもらえると思います。

最後に、小山町のお役立ちアプリの作成についてです。どのようなものかと申しますと、小山町内で利用することができるクーポン券や割引券の機能、小山町内で行われるイベントや行事などの開催をお知らせする機能、小山町内で登録されている店舗を探すことのできる機能、現在あるMONETでのコミュニティバスの予約機能を一つに統合する。このようなアプリを作成することによって、小山町で暮らす人々の生活を充実させることができるのではないかと思います。

以上の3点について、町の考えを伺います。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（野木雄次君） 井上議員、杉山議員の御質問にお答えいたします。

初めに、「小山町のここがすごい」というテーマで魅力をアピールすることについてであります。

町では、議員御案内のとおり、公認のインスタグラマー2人の方に小山町のイベント、スポットなど、広く情報発信の投稿をしていただいております。また、ユーチューブの動画配信については、広報紙にAR動画を仕込み、ユーチューブでも視聴できるようにしております。その他に、昨年、誘客効果が大きい期待できる富士山など、町内観光資源を素材としたPR動画を制作いたしました。この動画をユーチューブ等により小山町の魅力を国内外に広く配信し、町の認知度を向上させ、訪れたいと思わせることを狙いとしたプロモーション事業を本年1月より実施いたしました。

9月末現在、動画広告の実績ですが、日本のみならず、タイ、台湾、シンガポール、アメリカ、イギリス、中国の対象7か国で、693万回のアクセス件数となっております。小山町には、富士山をはじめとして、須走浅間神社、足柄峠、金時山、富士スピードウェイなど、多くの魅力のあるスポットがあります。これら観光資源の情報を総合的に発信することに加え、議員御質問のようなより精緻なアピール方法により、小山町のここがすごい、小山町にはすばらしいところがたくさんあると思っていただくことで、より多くの誘客につながっていくものと考えております。

次に、LINEスタンプの認知度の向上についてであります。

町では、令和元年に小山高校生作製のLINEスタンプを発売しました。このLINEスタンプは金太郎をデザインしたもので、利用者数はまだまだ多くないのが現状であります。一方、町では、来年度から小山町の魅力発信の方法や手段、イベントの参加や企画、新規事業の実施や課題解決などを目的として、高校生によるプロジェクトチームの立ち上げを考えております。

その高校生プロジェクトチームを通じて、高校生が主体となり、高校生ならではの発想で、町が実施する施策等の研究、企画をしていただきたいと思いますと考えております。

コミュニティバスの車体を装飾してPRする、いわゆるラッピングも一つのよいアイデアと考えますので、このアイデアも含めてLINEスタンプについての研究・企画をしていただきたいと思いますと考えております。

また、高校生プロジェクトチーム立ち上げの際には、小山町の魅力を広く発信できる企画の研究を提案していただけるよう、積極的に参加していただきたく存じます。

次に、お役立ちアプリの作成についてであります。

現在、小山町におきましては、議員御案内のLINEを活用した町民への情報発信サービスを研究しているところであります。議員御質問のクーポン券や割引券を表示する機能、イベントや行事などの開催をお知らせする機能、小山町内で登録されている店舗を探すことのできる機能をはじめ、道路損傷の通報やごみの出し方案内といった様々なアプリ特有の機能と、町ホームページの組合せによる情報発信を検討しています。

その中で、デマンドバスを予約する際のシステムであるMONETアプリにつきましては、直接LINEアプリ上で連携することはできないとのことでありますので、リンクを貼ってアクセスする方式の採用を考えております。

引き続き検討を重ね、より多くの方が魅力を感じるような、使い勝手がよく、小山町での暮らしを充実させるツールとしてリリースしたいと考えております。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありますか。2番 杉山 華君。

○2番（杉山 華君） 再質問します。

答弁の中で、高校生のプロジェクトチームを立ち上げるという話がありましたが、具体的にどのようなことをしていこうとお考えですか。以上です。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（野木雄次君） 井上議員、杉山議員の再質問にお答えいたします。

高校生のプロジェクトチームの具体的な内容につきましてですが、先進事例としまして福井県鯖江市がJK課プロジェクトを実施しておりますので、そちらを参考にしながら具体化していくことになるだろうと考えております。

鯖江市では、平成26年にプロジェクトをスタートさせ、コンビニと共同で手巻きおにぎりの開

発やオリジナルスイーツの考案、JK課オリジナル眼鏡による鯖江市PRのプロジェクト等の活動を実施しております。

現在のところ町においては、イベントの参加や企画、新規事業の実施や課題解決などを考えておりますが、小山町高校生プロジェクトでは、女子高校生に限定することなく、小山高校生や町内在住の高校生による高校生課といったプロジェクトを考えているところであります。

高校生ならではの発想で、町の活性化を図る取組をしていただきたいと考えているところであります。今後、プロジェクトの詳細につきましては、先生方等と調整をしていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありますか。

○1番（井上 聡君） 以上で私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（三浦ひまり君） 次に、3番 池谷佳紀君。

○3番（池谷佳紀君） 3人を代表して、学生の進学援助について質問します。

一つ目に、現在小山町内の学校では、漢検と英検の資格取得を行っているかと思えます。しかし、英検、漢検以外にも様々な資格があります。

そこで、小山町で、英検、漢検以外に、高校・大学進学に有利になる資格取得の援助を行ってみてはいかがでしょうか。

例えば、看護系志望者を対象に、救急講習と呼ばれる公的資格や、GTEC、TOEICなどの英語系資格などを小山町が行っている夢チャレンジに加えてみるのがよいかと考えます。また、資格取得に加え、英検の2次試験会場への送迎を小山町で行ってみてはいかがでしょうか。そのようにすれば、保護者への負担が減り、より英検の受験者数が増えると考えます。

二つ目に、現在、小山町では、小中高生が交流する機会が、地域の行事などで多いと思えます。しかし、地域の行事だけでは、あまり交流はできていないと思えます。そこで学ぶことを通して、小中高生の交流を増やしてみてもはいかがでしょうか。

例えば、小学生とは読み聞かせやスポーツ講習など楽しめるイベントを行い、中高生は高校生が中学生に勉強を教えるなどのイベントを行ってみてはいかがでしょうか。特に中学3年生は初めての受験で、不安や分からないことがたくさんあると思えます。そこで歳も近く、同じ受験を体験している高校生に勉強や学校の特色を教えてもらうことで、中学生は自分に合った高校を選ぶことができ、高校生は中学の復習や自分が通っている高校をより知ることができると思えます。

これらの意見について、町はどうお考えでしょうか。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○教育次長（長田忠典君） 池谷議員、鈴木議員、柿下議員にお答えいたします。

初めに、高校・大学進学に有利になる資格取得の援助を、小山町夢チャレンジ支援事業に加えてはどうか、また、英検の2次試験会場への送迎を行ってはどうかについてであります。

本町では、平成27年度から、子ども達の夢を育み、その夢の実現を支えるとともに社会に貢献できる人材の育成に資するため、公益財団法人日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定にチャレンジする意欲のある生徒に対し、小山町夢チャレンジ支援事業として、検定料全額を補助しております。

昨年度の実績を申し上げますと、年3回の検定に、町内中学生延べ459人、実人数で286人、68%の生徒がチャレンジしました。この検定は、受験者数が10人以上などの一定の要件を満たせば各中学校が準会場として認められ、より多くの生徒が受験することが可能となっております。

進学等に有利になる資格については、議員おっしゃったとおり幾つかあると思いますが、本町では、その中でも実用英語技能検定のように、各中学校が検定会場として認められるようなものや、公平性の面からも多くの生徒が受験対象となる検定等を小山町夢チャレンジ支援事業の対象とするように、今後検討していきたいと考えております。

また、英検の2次試験会場への送迎についてであります。1級から3級の合格者が対象であります。合格不合格についての個人のプライバシーの関係もあることから、今までどおり、各家庭での対応をしていただければと考えております。

次に、学ぶことを通して小学生、中学生、高校生の交流を増やしてみてもどうかについてであります。

本町では、平成26年度から本格的に小学校と中学校の連携に取り組み、現在でも各中学校区ごとに積極的に交流が行われております。その中には、中学生が小学生に読み聞かせを行ったり、中学校の部活動を小学生が体験したり、お互いの合唱を聞き合ったりなど交流を深めております。

地域の行事だけでなく、学ぶことを通して小学生、中学生、高校生の交流を増やすことは、非常に魅力的な提案だと考えております。地域寺子屋のような場で、大学生や高校生が中学生・小学生に勉強を教えている自治体もあります。

本町では、各小学校区ごとに放課後子ども教室を実施しており、この教室では教師の経験者や地域の大人の方が、放課後に漢字や算数、学校によっては英語、将棋、運動などを行っております。この放課後子ども教室に高校生が指導者となってくれば、小学生との交流の場ともなり、大変意義深い教室になると考えております。

なお、中学生との交流や小学生から高校生までの交流については、今後スポーツや部活を通じての交流などができればと考えております。また、皆様からよいアイデアをいただきたいと思っております。

さて、小山高校の生徒の皆様には、ダンス部や吹奏楽部の出演をはじめ、今まで町のイベントに参加し、盛り上げていただいたり、富士マラソンフェスタなどにボランティアの参加、町内の清掃活動など、地域や本町の活性化に大きく貢献していただき、誠に感謝しております。コロナ禍で本年度は活動が思うようにできませんでしたが、今後も皆様には積極的に地域に出向き、多くの体験を基に、将来各自に合った様々な場所で輝き、活躍できる人となるように願っております。

す。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありませんか。5番 柿下遥菜君。

○5番（柿下遥菜君） 再質問をします。

質問の中で、中高生の勉強についてのイベントを開催してはどうかということがありましたが、今後、小山町では、どのような取組を行おうとお考えでしょうか。以上です。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○教育次長（長田忠典君） 柿下議員の再質問にお答えいたします。

中学生は、高校への体験入学やオープンスクールなどで、おのこの希望する高校へ行く機会があるのかなと考えております。逆に高校生の方は、なかなか中学に出向くという機会がないのかなと考えております。今御提案ありました勉強のイベントについてでありますけれども、なかなかうまいものを思い浮かばないんですけれども、出身中学にこだわらなくてもいいと思うんですけれども、高校生に中学に出向いてもらって、勉強や部活など自分が取り組んだこと、感じたことなどを発表してもらう場を設ければいいのかなというふうに考えております。その辺をできれば進めていきたいと考えております。以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありませんか。

○3番（池谷佳紀君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了いたします。ありがとうございました。

○議長（三浦ひまり君） 次に、6番 甲斐七楓君。

○6番（甲斐七楓君） 2人を代表して、小山町に公式LINEと自習スペースの確保について質問をします。

まずは小山町の公式LINEをつくることです。

隣の御殿場市には、実際に市の公式LINEがありますが、小山町に公式LINEはありません。公式LINEがあれば、小山町について気軽に知ることができます。また、新型コロナウイルスについての情報や台風情報、災害時の町からの連絡など、いろいろな場面で役に立つのではないのでしょうか。

小山町では金太郎メールでの情報共有を行っているようですが、LINEとメールとでは、LINEの方が頻繁に開きますし、LINEを追加するのとメールを登録するのでは、LINEを追加する方が簡単です。金太郎メールとLINEを併用していけば、小山町の情報伝達能力が向上するとともに、小山町のLINEスタンプの認知度も高くなると考えました。

次は自習スペースの確保についてです。

足柄駅がリニューアルされ、足柄駅交流センターが建設されました。センターの2階が休憩所になっていますが、小学生は遊び場として、中高生は自習スペースとして利用しているのを見かけます。ここで問題となるのが、小学生と中高生の利用目的の違いだと思います。今回、私

達は、高校生議会で発表する内容に生徒会以外の生徒からの幅広い意見を取り入れるために、学校でアンケートを行いました。

アンケートの中に、足柄駅を利用して学習しようとしたときに、子どもが騒いでいると集中力が切れてしまうため、子どもの遊び場か、学習専用のスペースを設置してほしいという意見がありました。

そこで、休憩所の利用法を時間帯によって変更するというのはいかがでしょうか。例えば午後4時を過ぎたらあまり休憩所内では騒がないようにというような利用方法を書いたプレートを設置すれば、休憩所の利用者が減少することではなく、利用する全ての人が今までよりも気持ちよく利用することができるのではないのでしょうか。

また、休憩所にWi-Fiを設置することで、調べ学習もしやすくなるのではないのでしょうか。そうすれば、本来の休憩所の目的と異なってしまいますが、中高生にとって理想的な自習スペースが確保できると考えました。小山町はどのようにお考えでしょうか。

以上です。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（野木雄次君） 甲斐議員、植松議員の御質問にお答えいたします。

初めに、公式LINEについてであります。議員御案内のとおり、LINEは多くの人に利用され、友達追加することも簡単であり、情報発信を行う手段としては非常に有効であると考えております。最近多くの自治体が公式アカウントをつくり、防災情報やコロナ等の情報発信を始めたとの新聞報道を目にいたしますが、一方的に情報発信するものが多くを占めている状況であると認識をしております。

町では、総合体育館や子育て支援センター、きんたろうひろば、パークゴルフ場について、LINEによる情報発信を行っているところですが、他の自治体の公式アカウントと同様に情報を発信するのみで相互のやり取りができないものとなっております。

そのような状況にはありますが、現在、町ではLINEの運用について研究を進めているところでもあります。公式アカウントの運用については、一部の情報を一方的に発信するだけではなく、町全体、各課からの情報提供、住民等からの通報ができればよいと考えております。通常無料の公式アカウントはメニューを6マスまでしか掲載できませんが、導入を検討しているシステムは、12マスのメニューが掲載でき、また、タブが3つまで設定できますので、最大36のメニューが可能になるものと考えております。

内容、活用方法につきましては、まずアンケート機能があり、それからアンケート機能を利用して、回答データを基に防災、新型コロナウイルス、観光などの情報について、町民等の方々が必要としている情報ごとに必要な情報のみの提供が行えるセグメント配信を考えています。また、自動会話プログラムであるチャットボット機能を利用して、各種証明・手続の案内、子育て・母子・健康に関する相談、ごみの分別方法などの案内を考えています。さらに、画像や位置情報を住民

から通報していただくサーベイ機能を利用して、道路破損箇所の通報や水道管破損箇所の通報していただくことにより、現場の状況等の把握が容易になり、より早期の対応ができるようになると考えています。

このように、LINE公式アカウントによる役場各課の情報の配信や住民等からの通報、検索など様々な機能を活用することにより、住民の利便性が向上するよう準備を進めているところであります。

自習スペースの確保につきましては、経済産業部長から回答いたします。

私からは以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（高村良文君） 次に、二つ目の足柄駅前交流センター内の自習スペースの確保についてお答えいたします。

本年7月にオープンいたしました足柄駅前交流センターであります。足柄駅を利用します町民、通勤・通学者、町を訪れる観光客の皆様の安全及び利便を確保するとともに、良好な休憩の場、鉄道情報、観光情報等を提供しながら、小山町の交流人口の拡大につながる施設にしていきたいと考えております。

足柄駅前交流センターは、公共の施設であります。議員の御質問の自習スペースの確保につきましては、何らかのイベント等の使用とは別に、通常の使用に際し特定の目的のための専用施設とすることは、たとえ時間の区切りがあっても難しいものと考えております。また、議員も御存じのとおり、そのスペースも十分ではありません。

しかしながら、公共の場ということを考えますと、お互いが気持ちよくこのスペースを使用できるよう、他の方の迷惑になるような行為があるとするならば控えてもらうよう、注意喚起の掲示等をしてまいります。

次に、施設へのWi-Fi設置についてでございます。現在、フリーWi-Fiが設置されておりますので、御活用いただきたいと考えております。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問ありませんか。7番 植松 駿君。

○7番（植松 駿君） 再質問をします。

答弁の中で、足柄駅前センターには、現在フリーWi-Fiが設置されているとおっしゃっていましたが、Wi-Fiのパスワードの設定は実施済みでしょうか。パスワード設定をしていないと、スマートフォンなどがハッキングされてしまうおそれがあります。以上です。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（高村良文君） 甲斐議員、植松議員の再質問にお答えいたします。

足柄駅前交流センターに設置されておりますフリーWi-Fiにつきましては、NTT西日本による御当地Wi-FiであるFujisanWi-Fiを運用しております。

この利用方法は、個々でパスワードの設定を行うことなく、自動で認証、接続が行われます。機器の認証後は、セキュリティ対策が最も高いと言われているシステムの採用により、通信の暗号化が行われております。心配されておりますスマートフォン等の情報の漏えい、ハッキングなどには十分対応しておりますので、御安心して御利用ください。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問ありませんか。

○6番（甲斐七楓君） 以上で私達の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（三浦ひまり君） 次に、8番 八木絢斗君。

○8番（八木絢斗君） 2人を代表して、こども園について質問します。

小山町では令和2年4月1日から、全ての保育園、幼稚園がこども園に変わりました。環境が変わったことで、こども園にお子様を預けている保護者の方々は、様々な不安や負担を抱えていると思います。

そこで、こども園にお子様を預けている保護者の方々を対象にアンケートを行うのはどうでしょうか。アンケートを行うことで保護者の方々の実際の声を聞くことができ、不安や負担を減らすことができます。

例として、愛知県岩倉市や岡山市が実施しており、アンケート内容としては、送迎関連、園の選定理由や満足度、施設、設備や保育内容についてです。その結果から、課題や園に通っている園児の特徴について知ることができます。さらに、保護者の感想として、「興味があり面白かった」「また参加したい」や、「現状や気にしていること、困っていることに気づけた」などがあります。

次に、こども園への送迎でバスを利用することについてです。例として、アニメ「クレヨンしんちゃん」に登場する猫バスを参考にします。これにより保護者の朝の負担を減らすことができ、実際にある園では「子どもは楽しいと思う」や「幼児でみんな仲よく、チームワークがあつて素晴らしい」という結果が出ています。この質問によって園の評価が上がることで、町の人口増加を期待できます。

これらの質問について、どのようにお考えでしょうか。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○教育次長（長田忠典君） 八木議員、金子議員にお答えいたします。

初めに、こども園の保護者を対象にアンケートを行うのはどうかについてであります。

本町では毎年、各こども園の教育保育、子育て支援事業の状況、こども園の運営状況について自ら点検及び評価を行っております。その中で、園の職員に対して資質の向上を図るために、年2回のアンケートの実施、また保護者に対しては12月にアンケートを実施しています。

昨年度実施した保護者アンケートでは、「こども園に行くのを楽しみにしているか」「園は子どもが基本的な生活習慣を身につけ、生活できるよう取り組んでいるか」「園は生活の場としての環境が整っているか」など24項目について評価をいただき、評価が悪い項目については、その具体的

な内容や、改善すべき考えを記載していただいております。また、自由記載欄を設け、質問以外の意見等も把握するように努めております。

本年度も12月に保護者アンケートを実施する予定であります。議員御指摘のとおり、町内全ての幼稚園、保育園が、今年こども園化した初年度であり、保護者の方から様々な意見を聞くことが大切であることから、今後、質問内容を再度検討した上で、本年度の保護者アンケートを実施して、こども園の運営に活かしていきたいと考えております。

次に、こども園の送迎にバスを利用することについてであります。

本町では現在、4園あるこども園の中で、するがおやまこども園に通う明倫地区にお住まいの1号児、いわゆる幼稚園児の送迎のみ、マイクロバスを運行しております。これは、明倫地区にあった駿河幼稚園が、平成22年3月に小山幼稚園と統合して駿河小山幼稚園となり、明倫地区内に幼稚園がなくなることから、駿河小山幼稚園までの送迎用としてバスを始めたものであります。

こども園について説明をいたしますと、保護者が働いているか働いていないかに関係なく、幼稚園児に当たる1号児、保育園児の3歳から5歳児に当たる2号児、0歳から2歳児に当たる3号児、今言いました1号から3号児までが一緒に生活しております。

また、近年、働いている保護者の方が増えてきていることから、現在、町立こども園全体では、71.8%が、先ほど言いました2号児と3号児となっております。2号児、3号児については、保護者の方の勤務場所等の都合により町内外から通われていることや、仕事の通勤時間に合わせて、車に乗せて子どもを登校園させております。送迎バスを導入するとなった場合には、現状では、明倫地区以外は利用する方があまり多くないのではないかと考えております。

次に、議員御提案の猫バスについてであります。子ども達に喜ばれ楽しく乗車できるすばらしい提案だと思います。現在使用しているマイクロバスをラッピングするなど、子ども達に喜ばれるバスになるように考えていきたいと思っております。

町では、町民の皆さんが安心して子ども達を預けられるこども園となるように、引き続きよりよい子育て環境をつくっていきたくと考えております。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありませんか。9番 金子光希君。

○9番（金子光希君） 再質問をします。

答弁の中で、現在使用している送迎用のマイクロバスのラッピングをすとおっしゃっていましたが、そのデザインを小山町民の方々に提案してもらうのはいかがでしょうか。

以上です。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○教育次長（長田忠典君） 金子議員の再質問にお答えさせていただきます。

議員御提案のとおり、そのようなラッピングでデザインを入れるようなことがあれば、そのような機会があれば、幅広くアイデアを募ることが、やはり議員御提案のとおり大事だと思ってお

ります。積極的に、小山高校の皆さんはぜひそのような機会に参加していただけるように、幅広く募集をかけることになると思います。その際はよろしく願いいたします。

以上です。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありませんか。

○8番（八木絢斗君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（三浦ひまり君） 次に、10番 澤岡汐里香君。

○10番（澤岡汐里香君） 3人を代表して、小山町の防災訓練について質問します。

近年の防災訓練では、家族連れの参加が低いように見られます。特に、私達の母親世代の参加が低いように思われます。これらの原因として、訓練内容が毎年同じということや、若い世代が興味を持つような内容でないなどが挙げられます。

これからの小山町は、若い人達が活躍していくようになっていきます。今のままでは、いざというときに行動できなくなり、この訓練の意味がなくなってしまうと思います。そこで、私達は若い人達が興味を持ち、訓練に参加してもらうための内容を質問させていただきます。

まず、防災体験施設の設置はどうでしょうか。例えば、起震車やVR防災体験車などがあります。起震車は、実際の揺れを体験することができます。それにより、家庭で対策について改めて考える機会ができ、防災への意識も高まると思います。

VR防災体験車とは、これまでにない臨場感を体験できる専用の大型車です。これは地震だけではなく、火災や風水害の疑似体験、そして、実際に揺れを体験した後、逃げようとしてもドアが開かなかつたり物が散乱したりと、実際に起こり得る体験ができます。この車を利用してみるのはどうでしょうか。

東京消防庁で実際に体験した人の声として、360度3Dゴーグルで体験する想像以上の迫力と臨場感があるというのを聞き、小山町でも体験によって、普段の生活でも防災を意識できるのではないのでしょうか。

二つ目は、炊き出しなどの避難所の体験を行うというものです。避難所では、日常生活とは大幅に異なる点があります。そこで、学校の体育館などを利用して簡易ベッドの設置の方法を実際に行うことや、HUGの実施がいいと思います。HUGというのは、H（避難所）、U（運営）、G（ゲーム）の省略です。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか。また、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。HUGは、公民館など小さな施設でも体験することができます。これを、各地域の避難場所で年齢ごとに分かれ実践して、いつ来るか分からない災害に備えてみるのはどうでしょうか。

この二つの内容であれば、若い人達も興味を持ち、参加者が増えると思います。これらの意見について、町はどのようにお考えでしょうか。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○危機管理局长（遠藤正樹君） 澤岡議員、岩田議員、松元議員の御質問にお答えをいたします。

初めに、若い人達が興味を持ち積極的に防災訓練に参加してもらうための内容についてのうち、起震車やVR防災体験車の利用についてであります。

起震車の乗車体験は、直近のものでは本年8月28日に小山高校定時制からの要請によりまして、同校の防災訓練の一環として34人の皆様に御参加をいただき、起震車を使った地震訓練を行いました。参加された生徒さんからは、震度6強の揺れは想像以上だった、揺れている最中は動くことができず、家具も簡単に転倒してしまうと思うので、家の家具はしっかり固定しておきたいなどの感想が寄せられております。

また、一昨年、平成30年度12月の地域防災訓練の一環として、北郷地区の合同訓練時にも北郷中学校を会場に起震車を使った地震体験コーナーを設け、800人を超える方に体験をいただいております。

次に、VR防災体験車ですが、地震、津波、火災の3種類の災害をリアルに体験できる車両で、価格も大変高額であり、現在、本県内の消防署等には配備をされておられません。本年5月現在で国内では、議員御案内のとおり東京消防庁と和歌山市消防局にのみ配備をされており、このうち東京消防庁の車両は、東京都の消防防災イベント時には乗車体験ができますが、他県には貸出しを行っていないようであります。VR防災体験者に関しましては、もう少し時間が経過し、導入が増えた状況で想定したいと考えております。

いずれにいたしましても、これらの体験により、普段の生活の中でも災害や防災を意識していただけるため、今後も積極的にこうした体験乗車の機会をつくってまいりたいと考えております。

次に、2点目の質問でありますHUG、いわゆる避難所運営ゲームですが、令和元年度9月に町の総合防災訓練の一環として、総合文化会館を会場に自主防災会及び防災士連絡会、合わせて47人の御参加をいただき、HUGを実施しております。過去には平成28年度9月の総合防災訓練でも行っており、自主防災会にはある程度なじみが出てきたように思いますが、御指摘の今後の各地区での年齢ごとの開催等につきましては、各地区の自治防災会等と協議をしながら検討をしてまいります。また、炊き出し等は、例年数多くの自主防災会で備蓄食料の確認も兼ねて行っております。

御指摘の簡易ベッドの代用といたしまして、本年度は段ボールベッドを各避難所に配置し、やはり代用となるエアーマットも備蓄をしておりますので、避難所運営訓練時に設置することは可能であると考えております。

議員御承知のとおり、本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度までの、できるだけ大勢の人数を迅速に避難させるという考え方を変えざるを得ず、訓練や会議、防災講演会等も3密を避けて行うか、中止を余儀なくされてまいりました。今回、防災訓練を充実させるためにいただいた御意見は大変貴重でありがたく、コロナ禍の中で実施が可能なものにつきましては、

既に行っているものも含めて進めてまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありませんか。12番 松元愛菜君。

○12番（松元愛菜君） 再質問をします。

答弁の中で、起震車、炊出しなどを実施しているとおっしゃっていましたが、その実施内容をどのように小山町民の方々に伝えていきますか。

以上です。

○議長（三浦ひまり君） 答弁を求めます。

○危機管理局长（遠藤正樹君） 澤岡議員、岩田議員、松元議員の再質問にお答えをいたします。

訓練の実施内容をどのように小山町民の方々に伝えていきますかという再質問ですが、訓練の実施内容につきましては、まずは町の広報媒体であります広報おやま等に掲載をし、お伝えをしているところでもあります。それから、地方新聞に情報を提供し、取材を受ける等々、こちらの方面でも掲載をして周知に努めております。

また、これは今後のこととなりますが、町のホームページや先ほど来、議題に出ておりますLINE等の媒体も研究してまいりたいと考えてございます。

以上であります。

○議長（三浦ひまり君） 再質問はありませんか。

○10番（澤岡汐里香君） 以上をもちまして、私達の一般質問は終了します。ありがとうございます。

○議長（三浦ひまり君） これで一般質問を終わります。

ここで、議長の私から皆さんへ御挨拶を申し上げます。

皆さん、本日はありがとうございました。新型コロナウイルスの影響により開催が心配されましたが、小山町高校生議会を無事に終了できたことをうれしく思います。

今回は議長として参加させていただきましたが、去年の高校生議長がどんな気持ちで後輩の私達を見ていたかが分かりました。自信を持って信頼できる気持ちと、やっぱり少し先輩として心配してしまう気持ちがあった半面、新体制で初めての行事を迎えたみんなは、いつも見てきたよりずっと頼もしく見えました。

例年と違うことが多く、また、より少ない人数の中で頑張った後輩達を誇りに思います。また、役場や議会の皆さん、例年同様、私達高校生の意見を取り入れてくださり、ありがとうございます。議会への準備を進めていく中で、自分達の町の現状を知り、見詰め直して改善に努めることの大変さを実感します。

今、私達が暮らしている、通っている町をつくっているこの議会のことを、生徒会が発行している生徒会新聞等を使い、高校のみんなにも知ってほしいと思いました。ここでの経験が、これからの小山町をつくっていく私達を一回りも二回りも成長させてくれます。毎年貴重な体験をさ

せていただいている役場や議会の皆さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最後になりますが、本日は誠にありがとうございました。

(一同拍手)

○議長（三浦ひまり君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

これもちまして、令和2年小山町高校生議会を閉会します。

午後2時00分 閉会

○議会事務局長（後藤喜昭君） 御起立願います。お疲れさまでした。御着席ください。

○総務課長（池田 馨君） 皆様、お疲れさまでした。

引き続き、ただいまの高校生議会につきまして、4人の方から講評いただきたいと思います。

初めに、小山町長 池谷晴一が申し上げます。

○町長（池谷晴一君） 皆様、本日は高校生議会ということで、開会をさせていただきまして大変ありがとうございました。また、御苦勞さまでございました。特に三浦議長様には、的確な進行ということで、大変見事な進行であったというふうに思います。ありがとうございました。

過去の高校生議会の中でいただきました提言等につきましては、実際に実現したものや、現在調整中の施策などもあります。小山町政の推進の一助となっているという施策もございます。改めて、皆様に御礼を申し上げる次第でございます。

今日も、情報発信、あるいは教育、経済、福祉、防災など、小山町政の全般に係る大変貴重な御意見、御提言をいただきまして、大変ありがとうございました。実現に向けまして検討してまいりますというふうに思います。

この議会は、高校生の皆様が普段思っていること、こうしたら町がもっとよくなるのというようなことを質問していただきまして町、当局側が回答するというようなことを通じまして、皆様に町政、政治に対する関心を高めていただくということを目的に、学校側と相談をしながら開催をさせていただいております。

公職選挙法が改正されまして、平成27年から選挙権年齢が18歳に引き下げられました。また、民法も改正をされました。令和4年4月からは、青年、いわゆる成人年齢ですけれども、18歳に引き下げられます。18歳になると、親の保護という傘がなくなりまして、全て自分の意思で決定をするということになります。社会人としての義務と責任が生じるということになるわけでございます。

皆様の中には、もう既に18歳になった方がおられるかと思えます。そしてまた、来年、再来年に18歳になられる方もおられるかと思えますが、18歳という年齢ですけれども、世界的には成人年齢として主流ということがございます。ぜひ皆様にはグローバルな視点を持っていただき、また、政治に参画するということによって、皆様がこれから飛び込む社会は変えられるという意識を持ち、これからの長い人生をポジティブに生きてほしい、歩んでほしいというふうに思います。

新型コロナの影響によりまして、本年当初学校へ行けない日が続くなど、異常なスタートとい

うことになってしまいました。それぞれ将来の夢を抱いて小山高校に入学されたと思います。小山高校での生活、活動を通じまして、皆様の夢が実現し、素晴らしい未来が訪れますことを期待し、講評とさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

○総務課長（池田 馨君） ありがとうございました。

次に、小山町議会議長 池谷洋子様、お願いいたします。

○議長（池谷洋子君） 町議会議長の池谷洋子でございます。

高校生議員の皆様、そして、議長を務められた三浦さん、大変にお疲れさまでした。

皆さんの堂々とした一般質問、そして三浦議長の落ち着いたスムーズな議事進行に感服いたしました。本日参加された高校生議員の皆様には、今日の高校生議会の様子や体験を家族や多くの友人に、話を広めてほしいと思います。

先ほど町長からお話がありましたとおり、現在選挙権の年齢が18歳へと引き下げられています。皆さんの中にも、間もなく選挙を経験される方がいらっしゃるのではないのでしょうか。この高校生議会は、若者の政治離れということがかねてから指摘されている中で、政治への関心、また、理解というものを深めてもらうことが目的の一つです。

政治、特に地方行政というのは、決して難しいものではなく、皆さんの一番身近なところで動いているものです。今日、皆さんの一般質問のように、私達町会議員も、町民の皆さんの現場の声、そして小さな声を拾い上げて町政に届けています。ぜひ政治に関心を持っていただき、今後積極的に社会参加を心がけていただけたら幸いです。そして何より、健康第一、勉強やスポーツ、そして、自分の夢に向かってより一層高校生活を励んでください。

最後になりますが、本日出席の当局の皆様や小山高校の先生方には、最後までこの高校生議会の開催に御協力いただきましたことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

以上、講評とさせていただきます。本日は大変に御苦労さまでした。

○総務課長（池田 馨君） 次に、小山町教育長 天野文子が申し上げます。

○教育長（天野文子君） 高校生議員の皆さん、今日はお疲れさまでした。御苦労さまでした。教育長の天野です。

本当に爽やかで立派でした。やはり、しっかり質問ができること、それから提言できたことは、よく考えたんだなと思います。この高校生議会はもう5回目ですが、本当にだんだん皆さん立派だなと思いますし、この議会は皆さんを成長させ、そして大きく飛躍させるものだなと思っています。今日もその成長の一端を拝見させていただきました。

まず一つ目ですが、自分の身の回りのこと、そして、自分だけでなく社会、地域のことについて課題を見つけ、そして提案していただきました。そして友達とよく見たり聞いたり話し合ったりしたこと、それ自体が素晴らしい成長の一つだと思います。それにはとても価値があったと思います。これからも、今回はコロナ禍の中でいろいろあったと思いますが、本当によく調べた

などと思います。

それから二つ目ですが、何回もお話もありますが、選挙権が18歳になったということで、世の中の仕組み、政治、経済、教育、そういうものを様々な視点から、正しいことは何かとか、人々の幸せのためには何をどうしたらいいんだろうかという、大変よい、考える機会になったんじゃないかなと思います。ぜひここで培った力で、今後たくさんのニュース、そして新聞をよく見て、こうあったらいいなと見ていただければと思います。

最後ですけれども、これからの未来をつくるのは皆さんです。皆さんの力です。小山ばかりじゃありません。日本も世界も、10年後、20年後はどんなふうになっているか予測ができないところもあります。そういう中で、皆さんは、ただ受け身で聞いていくのではなくて、積極的にどんどん、こうあったらいいなというふうにつくり変えるぐらいの力で、世の中と関わってほしいなと思います。ぜひ頑張ってください。期待しています。

最後ですけど……、また最後になりましたね。すみません。今日はこのような機会に、皆さんが最大限に自分の力を発揮してとっても爽やかに感じました。これからも小山で学んだことを誇りに思い、自信を持って世の中に羽ばたいてほしいなと思います。今日はこのような機会を持ってくださいまして本当に町もそうですが、議員の皆様も、みんなでやってくださったことに、本当に深く感謝しています。以上、講評です。

○総務課長（池田 馨君） ありがとうございます。

最後に、県立小山高等学校副校長 鈴木康之様、お願いいたします。

○小山高等学校副校長（鈴木康之君） 小山高校、副校長の鈴木です。本来は宮坂校長が講評を行う予定であったのですが、やむを得ない事情により、副校長の私が、校長に代わって少しだけお話をしたいと思います。

まずは高校生議員の皆さん、議長さん、大変お疲れさまでした。大変有意義な会となったことを非常にうれしく思っております。そして今回、御多用の中、また、コロナ禍において対応が大変難しい中、このような貴重な体験の場を設けてくださった小山町の皆様方に心より感謝申し上げます。

特に、議会事務局の皆様には、準備から本番に至るまで大変お手数をおかけしました。皆様方の温かい御支援のおかげで、本日、生徒達は立派に役目を果たすことができましたと思っております。

本校は、昭和60年の開校以来、常に地域とともに歩んでまいりました。本校には、今年で5回目を迎える役場における1年生全員のインターンシップ、各種行事をはじめとして、多くの地域に密着した行事や取組があります。地域や地域の人々との関わりの中で、生徒が視野を広げ、自らを大きく成長させていけることが、本校の自慢の一つです。そして、将来はいろいろな形で地域に貢献できる人材となれるよう、学校としても大いに力を入れているところです。

この高校生議会は、まさに小山高校を代表する看板と言ってもいい行事であると思っております。学校の中だけでは学ぶことができない地方行政というものについて、関心を持って主体的に

学ぶことができたのではないかと思います。ぜひ、今回限りだけではなく、この貴重な体験を活かして、今後も政治、行政を身近なものとして捉え、興味関心を持ち続けていってほしいと思っております。

今回、地域振興、教育、福祉、保育、防災などなど、身近なテーマを取り上げ、自分事として、高校生らしい率直な意見を堂々と述べることができました。特に、昨年は1年生として先輩の姿を見ていた2年生が、たくましく成長を遂げた姿は本当に素晴らしいと思っております。

特に私が感心した点は、本日の素晴らしい姿はもちろんですが、ここに至るまでの準備がしっかりとできていた点です。早い段階から学校でもアンケートを実施したり、他の地方自治体の事例研究をしたり、非常に入念に準備している皆さんの姿を見て、本日の成功を確信していました。

物事に取り組むことにおいては、準備が非常に大切であると、皆さんも身をもって実感できたのではないのでしょうか。これは、このことに限らず、他のことにも共通して言えることです。この体験をぜひ今後活かしていってほしいなと思っております。

さて、本校の教育目標は、開校以来、いかなる時代にもたくましく生き抜ける人間の育成にあります。先行き不透明のコロナ禍にある今だからこそ、この目標の意味をよくかみしめて、本日の貴重な体験を活かして、この先の時代をたくましく生き抜ける小山高生であってほしいと期待しております。小山町の皆様方には、今後とも変わらぬ本校への御支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以上で、講評とさせていただきます。

○総務課長（池田 馨君） ありがとうございました。

以上をもちまして、講評を終了いたします。

午後2時17分 終了